

# 総務文教常任委員会調査視察報告書

平成26年10月10日

総務文教常任委員会 委員長 川村 重光

- 期 日 平成26年9月30日（火）～10月1日（水）
- 視察先 ①石狩北部地区消防事務組合消防本部  
②千歳市防災学習交流センター「そなえーる」
- 目 的 ①消防指令センターの運用及び先進的取組事項についての調査  
②防災学習施設についての調査

当組合では消防通信指令業務について、平成24年4月に、三沢市、北部上北、中部上北の上十三地域4消防本部で、消防通信指令事務協議会を設置し、平成28年4月の共同運用開始に向け準備を進めている。消防通信指令センターは、十和田消防庁舎に開設して、消防救急デジタル無線の運用開始予定である。

システムの主な機能として、総合型位置情報通知装置（119番受信時、通報者の位置を地図表示）、出動車両運用管理装置（出動車両の位置や活動状況を把握、支援情報を創出）、情報共有端末（各消防本部及び署所で情報を供給）、ファックス及びメールでの119番通報の受信で形成されている。

研修先の石狩地区消防事務組合は、石狩市、当別町、新篠津村の1市1町1村で構成され、北海道内で初のデジタル消防無線局となり、平成25年10月から消防指令センターを開設し運用している。

指令センターの運用については、最新のコンピューターと通信機器を駆使して、各種災害時において119番の受信から現場到着までの時間の短縮、支援情報等により確実な現場対応ができ、今まで以上に迅速で効果的な消防活動が可能とのことで、当日は指令室に入り総合型位置情報通知システムの模擬運用を視察研修した。

高機能消防指令システムは、携帯電話、IP電話及び固定電話からの119番通報において、通報者の発信位置情報が消防指令センターに通知され、指令台の画面の地図上に通知位置を表示することが可能で、実際に携帯電話を使つての訓練で119番通報の受信と同時に指令画面に通報者からの住所情報や付近地図が瞬時に表示された。

また、GPS機能を活用して、リアルタイムに消防救急車両の位置、活動状況を常時把握し、出動中の車両を含め最適な出動隊編成ができ、通信受付、出動、現場活動が迅速かつ的確に行われている。高機能消防指令センター開設は、当地域の受益者にとり、今以上の安心安全が増すものと思われ早期の完成が待たれる。



千歳市防災学習交流センター「そなえーる」は、災害を「学ぶ、体験する、備える」をキーワードに、災害の模擬体験を通して、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学ぶ施設である。また、防災講座、救急講習、自主防災組織の訓練など防災学習の拠点施設としても活用されている。

終わりに今回の視察を振り返ってみると、千歳市の施設規模が大きいことや体験型の訓練場所、器具等が充実していることで、ここを利用した避難訓練や学習をすることで災害時の有効な避難習得に繋がるものと思われる。

